

行政視察報告書

令和元年 11 月 6 日

会 派 名 無会派

会派代表者 東 猴 史 紘

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

①

年 月 日	令 和 元 年 11 月 6 日 (水)
視察時間	10:00~11:00
視 察 先	愛知県稲沢市
視察項目	セーフティプラスワン事業

②

年 月 日	令 和 年 月 日 ()
視察時間	
視 察 先	
視察項目	

③

年 月 日	令 和 年 月 日 ()
視察時間	
視 察 先	
視察項目	

行政視察報告書

①

年月日	令和元年11月6日(水)
視察時間	10:00~11:00
視察先	稲沢市役所
視察項目	セーフティプラスワン事業
■目的 全校一斉下校の効果についてヒアリング	
■内容 ・稲沢市には小学校が23校ある、2013年に祖父江町の坂田小学校と、稲沢市の市街地にある稲沢東小学校の2校で試験的に一斉下校を導入した。低学年と高学年が一緒に下校することによる安全面のメリットは大きく、保護者や小学校教諭からも反響があり、以降、一斉下校を導入する小学校数を段階的に増やして2019年度に全23小学校で一斉下校を行うこととした。 ・生徒の反応「低学年の生徒は、高学年の下校時間まで行う課外活動を楽しみにしている。体力的につらいという声は生徒側からは一切出しておらず、保護者側からのクレームも市教委に寄せられたことは一件もない。」 ・保護者の反応「上級生と一緒に下校できるのは安心。課外活動も毎回楽しみにしている。」「下校が遅い方がパートで働く際にシフトが組みやすい。」「1年生と5年生の子供がいる。今までは1年生の下校時間に合わせなくてはいけない時があり、シフトを早上がりする必要があったが、一斉下校になってシフトが組みやすくなり、より長く働けるようになった。」 ・スクールガード(高齢者)の反応：従来は低学年の下校時間に一度付き添い、1時間程度カフェ等で時間を潰してから、今度は高学年の下校時間にもう一度付き添う2度手間があった。しかし、一斉下校実施後は付き添いが一度で済むので楽になった。 ・仮に、江南市で稲沢市と同様の全校一斉下校を実施する場合の課題は担当者曰く、2つである。1つ目は、低学年の課外活動のための非常勤講師を雇う予算を確保できるかである。1人当たり100万円であり、江南市内の小学校10校に各校1名10名雇うと年間1,000万円が最低必要となり、数に余裕を持って15名採用すると年間1,500万円である。 2つ目の課題は非常勤講師を思うように採用できるか、という点である。待遇は県費での非常勤講師と同程度の条件にしたものの、1日1時間、週に5時間のみの勤務条件では応募は来ない可能性が高く、例えば週に25時間(1日5時間)等、ある程度のボリュームがある勤務時間を提示する必要がある、実際に稲沢市もこの点、苦慮した上での26人の採用を達成した点を強調していた。	

■所感

予算上の問題はあるものの、市内小学校全校の一斉下校を導入すべきだと考える。その理由は共働き・高齢者・人口減少が進む地域社会では、スクールガードだけに頼るのはなり手不足に陥り、その実施回数に限界が訪れるからである。私の住む河野区でも高齢者が主体となってスクールガードを実施しているが、週2回行うだけでも相当な負担だという声を頂く。

従来であればスクールガードのなり手に期待される専業主婦等の女性も年々減少しており、働きに出ることが当たり前になった。今や低学年の下校時間は働く女性の勤務時間なのである。実際、稲沢市のスクールガードも圧倒的に高齢者が多い。

全校一斉下校の導入は週5日、常に高学年が低学年と寄り添って下校するため、週5日実施できない地域のスクールガードの弱点をカバーするものであり、江南市が生徒の下校時の更なる安全確保を考えるのであれば「全校一斉下校+スクールガード」体制にすることが効果的であると考えます。ただし、非常勤講師の予算約1,500万円が確保できればである。